

# 自ら考え、判断し、表現する児童の育成

～「情報活用の実践力育成シート」の活用を通して～

宮崎市立国富小学校

〒880-0924  
宮崎県宮崎市大字郡司分甲2226

<http://www.mcnet.ed.jp/kudomi-s/>

## 1. 研究の背景

本校児童は、全体的に明るく素直で真面目に学習に取り組んでいる。また、指示されたことに対しては、進んで取り組む傾向にある。しかし、日常の児童の様子を観察すると、自分の考えや思いを表現することに対して苦手意識を持っている。こうした児童の実態を受け、本校は平成24年度から、言葉を通して自分の思いや考えを的確に豊かに表現する力を育成するために、校内研究で「確かで豊かなことばの力を身に付けた児童の育成～言語活動を重視した国語科学習指導を通して～」に取り組んできた。実際、研究に関するアンケートより「作文が苦手・要約が苦手・話すことが苦手」という結果が出ている。また、全国的・国際的な学力調査でも、今の日本の子どもたちは、学ぶ意欲や判断力、表現力に課題があることが指摘されており、「生きる力」の一要素をなす「確かな学力」とは『知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの』とある。本校の課題である「表現する力」の育成を図っていくためには、様々な表現活動を行い、児童が「課題について考える場」「何が必要かを判断する場」「自分の考えや思いを整理して表現する場」を設定し、教師が意図的に繰り返し指導を行っていくことが大事であると考えた。

## 2. 研究の目的

児童が自分の思いや考えを表現する道具としてICTを活用し、自ら進んで課題について考え、得た情報から何が必要かを判断し、相手に分かりやすく伝える力を育成していくことは、「情報活用の実践力（課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集【調べる】・判断・表現・処理・創造し【まとめる】、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる【伝える】能力）」の育成を図ることにつながる。従って、総合的な学習の時間を中心とし、各教科における表現する場を通して、「情報活用の実践力育成」を核とした学習活動を工夫していくことにより、これまで培ってきた児童の「表現する力」をさらに向上させると考えた。児童の実態に応じて、観点を整理して目標を明確にして実践を行うこととした。さらに、「情報活用の実践力育成シート」を作成して、各学年における実践を整理して進めることで効果的に研究を進められると考えた。

### 3. 研究の方法

#### (1) 目指す児童

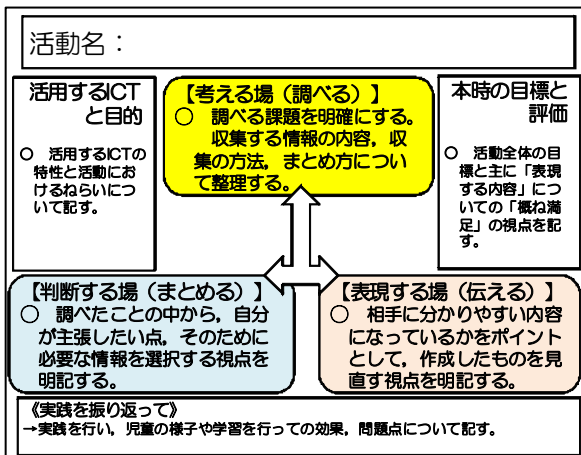
まず、今回の研究において「目指す児童」の共通理解を図り、その項目を本として、児童の意識調査を行い、現状を把握することとした。目指す児童については、「火曜の会ホームページ」の「情報教育の実践と評価のためのポータルサイト」における「情報活用の実践力のモデルカリキュラム」を参考にして、本校児童の実態も考慮して、下記のように設定することとした。

【中学年の目指す児童】	
1	<input type="checkbox"/> 作文を書いたり、発表したりするときに自分の言いたいことをきちんと表すことができる。
2	<input type="checkbox"/> 文章にまとめるときに、「調べたこと」と「自分の意見」を区別してまとめることができる。
3	<input type="checkbox"/> 作文を書いたり、発表したりするときに順序を考えて分かりやすく表すことができる。
4	<input type="checkbox"/> 作品を作るときに、いろいろ調べて発表の資料を作ることができる。
5	<input type="checkbox"/> パソコンを使って、文字の種類や大きさ・色などを考えて資料をつくることができる。
6	<input type="checkbox"/> まとめる内容にあわせて「写真」や「資料」を準備して発表することができる。
7	<input type="checkbox"/> 作文を書くときに、文章のタイトルを工夫している。
8	<input type="checkbox"/> 発表をするときに、伝える相手をしっかりと見て話すことができる。
9	<input type="checkbox"/> 姿勢や口形などに注意して、はっきりした発音で話すことができる。
10	<input type="checkbox"/> 他の人の作品を見て、「どこをなおすとよりよくなるか」を見つけることができる。

【高学年の目指す児童】	
1	<input type="checkbox"/> 自分が伝えたい内容を考えながら、内容に合った情報を選ぶことができる。
2	<input type="checkbox"/> 自分が伝えたいことを、簡潔書きにして表すことができる。
3	<input type="checkbox"/> 「5W1H」を意識しながら、相手に効果的に伝わるように構成を考えることができる。
4	<input type="checkbox"/> 考えたことや自分の意図が相手に伝わりやすいよう話を組立てることができる。
5	<input type="checkbox"/> わかりやすく伝えるメディアを選んで、自分の考えを表現することができる。
6	<input type="checkbox"/> 話の流れに沿った適切な写真やイラストを選択することができる。
7	<input type="checkbox"/> 発表時間に合わせて、プレゼンテーションの構成を組み立てることができる。
8	<input type="checkbox"/> 聞き手の反応を見ながら話すことができる。
9	<input type="checkbox"/> 相手の意見を理解して質問をしたり、答えたりすることができる。
10	<input type="checkbox"/> 引用のルールを守りながら、自分の考えを表現することができる。

【中・高学年における目指す児童に関する項目】

#### (2) 情報活用の実践力育成シート



「情報活用の実践力育成シート」（左の表）により、教師自身が実践の中で、何をポイントとするかを整理して研究を推進していくこととした。現在実践している3年生～6年生の総合的な学習の時間を中心に計画を見直し、学習内容のポイントを整理する。教科についても、「情報教育の手引き」に書かれている内容等と関連させ活動を考える。

シートにおける各項目に関する内容は、下記のように考えた。

#### 【課題について考える場（調べる）】

- 活動内容から、児童が自ら進んで課題を見つけるために、どのような指導を行っていくかを記す。また、収集する情報の内容・調べ方、まとめ方について整理する。

#### 【情報から何が必要かを判断する場（まとめる）】

- 得た情報の中から、児童が「主張したい点」、そのために必要な情報について活動の中で、選択して

いくための視点を整理して記す。

【自分の思いや考えを整理して表現する場】

- 判断した内容をもとに、表現する形式を考え、情報を整理するポイントについて記す。

【活用するICTと目的】

- 本実践でどんなICTを何のために活用するのかを明記する。

【本時の目標と評価】

- 本時の目指す目標と共に、前項で記した「目指す児童」との関連を明確にして、本実践のポイントを記す。

【授業を振り返って】

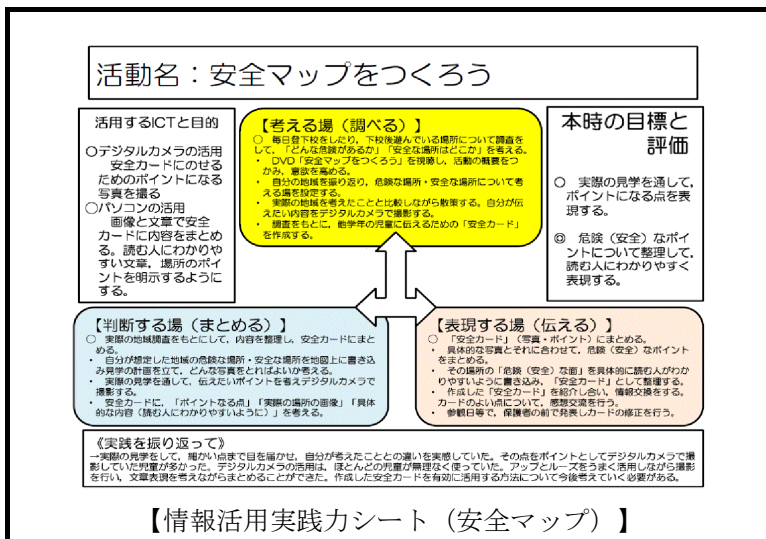
- 実践を行い、教師自身が目的とした内容とどうであったのかをできるだけ客観的に記す。

4. 研究の内容・経過

まず、「目指す児童」に関する項目について児童の意識調査を行った。意識調査の結果をもとにして、各学年での実践のポイントを整理していった。以下に、4年生の例を示す。

4年生の意識調査の結果では「文章にまとめるときに、「調べたこと」と「自分の意見」を区別してまとめることができる。」「作文を書いたり、発表したりするときに順序を考えて分かりやすく表すことができる。」「まとめる内容にあわせた「写真」や「資料」を準備して発表することができる。」といった項目の数値が他に比較して低かった。そのため、この項目をポイントとして、総合的な学習の実践項目と関連しながら実践内容を検討していった。

【4年実践例・・・「安全マップ」をつくろう】



本実践は、学校の周りの「危険なところ」や「安全なところ」を実際の調査をもとにししながら、他学年の児童の参考になるような成果物（安全カード）を作成するものである。

校区内の地図を参考にしながら、「危険な場所」「安全な場所」を考え、自分達が伝えたい内容を整理した。その後、実際の見学調査を行い、特にポイントとなる点をデジタルカメラで撮影した。撮影の際には、国語科で学習した「アップ」と「ルーズ」を意識して撮影していった。また、活用する写真は1枚としたが、数枚取った中から選択していくようにした。見学後、パソコンを活用して「安全カード」を作成

した（左図）。「安全カード」には、「場所・ポイント（短い言葉）」と「画像」,「具体的な説明」で整理するようにした。特に,「具体的な説明」の部分では、『「事実」と「意見」を区別すること』『内容を整理して,分かりやすく表現する』ことを意識して文章を作成していくように指導した。児童は,最後まで意欲的に取り組み,安全カードを作成した。作成したカードはお互いに見合い,「ポイント」「わかりやすさ」「写真」について意見交換をする時間を取り修正した。

## 安全カード

場所：学校の近く

(ポイント)  
反対がわが見えにくいことです。



「説明」  
このカーブは対向車が来ることが分かりません。なので,とてもあぶないです。しかも,カーブミラーがありません。それに,ここは小学校の通学路で,1年生から6年生まで通ります。お迎えの車とか先生の車とか近くに住んでいる方たちの車などで車だらけです。自転車もたまに通ります。とてもとてもきけんです。

### 【4年生の意識調査の変移】

	7月	2月	差
文章にまとめるときに,「調べたこと」と「自分の意見」を区別してまとめることができる。	2	3	+0.5
まとめる内容にあわせた「写真」や「資料」を準備して発表することができる。	3	3	+0.3
作文を書いたり,発表したりするときに順序を考えて分かりやすく表すことができる。	3	3	+0.2

※ 数値は「できる(4)」「まあまあできる(3)」「あまりできない(2)」「できない(1)」として,選択した人数をかけた平均値)

上記のように,特にポイントとして取り組んだ3つの内容の意識調査で良好な変化が見られた。実践を通して児童自身が意識しながら学習に取り組んでいくことと教師側もポイントを整理して学習を展開していくことである程度向上させることができると実感することができた。

## 5. 研究の成果

各学年で,総合的な学習の時間を中心に年間2事例を取り上げ,実践に取り組んできた。特に,児童の意識調査をもとに,ポイントになる点を明確にして現在,児童にとって不足しているだろう点を補いながら共通理解を図りながら実践に取り組んでいった。

各学年での、7月と2月の意識調査は下記の通りである。

	7月	3月	差	
中学年	○ 作文を書いたり、発表したりするときに自分の言いたいことをきちんと表すことができる。	2.9	3.1	0.2
	○ 文章にまとめるときに、「調べたこと」と「自分の意見」を区別してまとめることができる。	2.8	3.1	0.3
	○ 作文を書いたり、発表したりするときに順序を考えて分かりやすく表すことができる。	2.9	3.0	0.1
	○ 作品を作るときに、いろいろ調べて発表の資料を作ることができる。	3.1	3.2	0.1
	○ パソコンを使って、文字の種類や大きさ・色などを考えて資料をつくることができる。	3.2	3.5	0.3
	○ まとめる内容にあわせた「写真」や「資料」を準備して発表することができる。	2.9	3.1	0.2
	○ 作文を書くときに、文章のタイトルを工夫している。	3.1	3.2	0.1
	○ 発表をするときに、伝える相手をしっかりと見て話すことができる。	3.1	3.1	0.0
	○ 姿勢や口形などに注意して、はっきりした発音で話すことができる。	3.0	3.1	0.1
	○ 他の人の作品を見て、「どこをなおすとよりよくなるか」を見つけることができる。	3.2	3.2	0.0
高学年	○ 自分が伝えたい内容を考えながら、内容に合った情報を選ぶことができる。	3.2	3.6	0.4
	○ 自分が伝えたいことを、簡条書きにして表すことができる。	3.1	3.3	0.2
	○ 「5W1H」を意識しながら、相手に効果的に伝わるように構成を考えることができる。	3.0	3.1	0.1
	○ 考えたことや自分の意図が相手に伝わりやすいよう話を組立てることができる。	2.9	3.2	0.3
	○ わかりやすく伝えるメディアを選んで、自分の考えを表現することができる。	3.0	3.2	0.3
	○ 話の流れに沿った適切な写真やイラストを選択することができる。	3.5	3.7	0.1
	○ 発表時間に合わせて、プレゼンテーションの構成を組み立てることができる。	2.5	3.2	0.7
	○ 聞き手の反応を見ながら話すことができる。	3.0	2.8	-0.2
	○ 相手の意見を理解して質問をしたり、答えたりすることができる。	2.8	3.0	0.2
	○ 引用のルールを守りながら、自分の考えを表現することができる。	3.1	3.2	0.1

ほとんどの項目で、意識の伸びを確認することができた。高学年において、「聞き手の反応を見ながら話す」において、マイナス評価が見られた。この点においては、「発表する（表現する）」ことを児童が意識するようになり、児童自身の評価が厳しくなったものと思われる。また、今後教師側がもっと意識する点が明確になってきた。

また、今回実践した教師に「情報活用の実践力育成シート」を活用してのインタビューを行った。

- ・ ICTの効果を考えながら取り組むことにより情報教育の推進ができることを実感することができた。
- ・ 情報教育を推進するために「考える場」「判断する場」「まとめる場」という段階に整理して実践を行うことで、何をポイントにすればよいのかを考えることができた。
- ・ 総合的な学習において、どんな児童を育成するのかをより具体的に考えるようになった。

## 6. 今後の課題・展望

今回は、各学年において総合的な学習における年間2事例に取り組んだ。今後、事例の数を増やしていくことで、校内における「情報教育の推進」を図ることができると考える。また、各学年4学級ある本校では、今後他学級の先生方にも、今回の実践内容を広げていくことが課題の一つと言える。

また、教科の中でも、その学習内容を吟味することで、今回取り組んだ「情報教育」を意識した取り組みはできると考える。今後、情報活用の実践力を育成する場を意識して様々な取組を行っていくことで児童の能力をさらに伸ばせると考える。

今回の取り組みをさらに整理して、他校での取り組みの参考になるような「パンフレット」形式でまとめ、本校ホームページ上に提案していきたい。

## 7. おわりに

本校は、各学年4学級（1・2年生は5学級）という大規模校である。その中で、情報教育を推進していくためには、効率よく実践を行うことができ、実践内容の効果を実感できる仕組みが必要であると考え。 「情報活用の実践力育成シート」の活用が、その一助となると考える。今後、その内容等を精選しよりよいものにしていきたい。

### < 参考文献 >

- ・「教育の情報化に関する手引」 文部科学省 平成22年10月29日  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm)
- ・火曜の会ホームページ (<http://kayoo.org/>)  
情報教育の実践と評価のためのポータルサイト  
[http://jnk4.info/www/JNK4\\_PortalSite/](http://jnk4.info/www/JNK4_PortalSite/)
- ・情報活用ハンドブック スズキ教育ソフト株式会社
- ・ 総合的学習を創る【特集 プロジェクト学習=21世紀型テーマ例】(2007)明治図書